
魔術連盟！

Dear

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔術連盟！

【Nコード】

N1778V

【作者名】

Dear

【あらすじ】

魔術連盟・・・それはグランディア大陸の魔導師を統率する連盟。連盟は主に、違反魔導師取締りを主に取り締まっている・・・が。いるのだが。最近全然仕事がありません。新入りの少年はバカだし・・・。まあ、がんばれ！（・・・）b これは思いつきりギヤグです。シリアス？・・・入れる・・・かも？

とーじょーじんぶつしよーかーい(前書き)

ギャグより真面目に小説読みに来たんだよオレはあああああ!!
って人は逃げてね。

とーじょーじんぶつしよーかい

とーじょーじんぶつ！

ガイア 16歳 男

馬鹿です。どうしようもなく際限無く馬鹿です。馬鹿なりにがんばってるんだけどねえ。

ウェイン 年齢不詳 女

魔術連盟の連盟長。ガイアにはすつつつつつつつつつつげえ手焼いてます。苦勞人乙。

リヴァイア 25歳？ 男

連盟内1位の実績を持つ魔導師。赤髪赤眼のクソ真面目人間。目が以上にいいw

轟焰 47歳 男

職人気質の気のいいおっさん。人間じゃなくて黒い角が生えてる鬼族。

碑王 20歳 男

轟焰の知り合いの息子。鬼族。まあ、特になんもなしww

以上ですよ。本編次からですよ。

とーじょーじんぶつしよーかーい（後書き）

がんばるよー！がんばれないかもしれないよー！おいらはもつなんでも
いいよー！

日常・1 (前書き)

全力投球さあ逃げろ！

グランドニア大陸西、最大の都市エルファイン。一際目立つ建物、西部魔術連盟支部。重力に逆らった髪形をした少年が筋肉ムツキムキなおっさん（角付き）とのんびり話している。

「暇だなあ」

「そーだな。」

「仕事なさすぎね？」

「そう思う。」

ぐはあく、とよくわからない声を上げて少年が伸びをする。おっさんが手に持っていた本をパタリと閉じて少年を見る。

「まあ、最近違反もないしな。暇で当然だろ。」

サラツと言っ。

「でもよ、轟焰のおっさん。俺ら有体に言っちまえば失業者だぜ？」

「む……。そうだな。ガイア、どうしたらよいのだ？」

二人してむむう……。と考え込む。考えて、

「むう……………」

……………」

考えて

「……………ZZZZZ」

寝た。ガイアも轟焰も腕組みしたまんま寝た。その様子を後ろから見ていた青年が

「起きろッ！！！！」

ガスッ！

「いっつっつっつたあああああああ！！！！？」

「ムッ……………！！！」

二人が同時に頭を抑える。叩いたのは

「何すんだよ、リヴァ！てめ俺のこの貴重な脳みそにッ！」

「お前の脳みそよりはこの本の方が重要且つ貴重だな。」

「しかしその貴重な本で俺の頭まで叩く必要性はあるか？」
リヴァイアはうむ、とうなづく。そして

「まあ、次ふざけていたらジョシアン経典で殴る。」

ジョシアン経典・・・それはグラントニアの宗教の一つで異常に経典が分厚いことで有名だ。

「え、・・・俺に天国に行けっの？」

「お前は地獄で十分。」

性格がまじめなせいかわ、異常に毒舌なのだが。

「ってかさあ、長様まだ帰ってこないの？」

「ん、もう帰ってくると思うが・・・」

「お？伝令長が来たぞ。」

伝令長から伝令を受け取り、読む。

『明日帰る。酒用意しとけ。』

「・・・酷い文章だね。」

「ん、同意する。」

「俺の脳みそじゃ理解できないよ。」

「やっぱり脳みそ、ポンコだな。」

「（、、、）」

そんな、日常。

日常・1（後書き）

疲れた・・・もうちょっとがんばる・・・

ガ「俺の扱いが悪い・・・」

轟「俺もな」

作「知るかあああああああ！！！！てめーらSHINE！」

ガ「輝こうか？」

作「体内で核融合起こして輝き死ねッ！」

応援・・・よろしく・・・ね・・・グハアツ・・・

会議（前書き）

逃げろよ・・・もう・・・いろいろな意味で。

会議

所変わって中央の都市、アルバイン。中央に位置する『連盟塔』内部作戦室。

「しかし、今のままではデイスエルンを抑え切れん！！今こそ連盟長としての権限を使うべきではないのかね、ウェイン!?」

100歳は軽く行っちゃって且つさっさと天国にも逝っちゃいそうな爺さんがプルプルしながら言う。それに対し、まだ20歳ぐらいにしか見えない女性が

「だーからッ！お前頭までプルプルってんじゃねーよ！デイスエルンはガイアと轟焰とリヴァイアで十分だって！！ホンツツツツツツト60年前から変わんねーなツ、レインド！！」

「おまツ・・・！プルプルってるとはなんじゃ！！大体そんな動詞は無いッ！」

「うっさいわ！！最近になってでしゃばりやがって！！大体なあ、お前あの条約結ぶとき真ッ先に反対しやがって！WWW」

そう、言い争っているのは魔術連盟長、ウェイン。もう一人の老人は東方長レインド。ウェインは金髪赤眼。レインドは白髪。目？どうでもいい。

「私はね！？こういつてんの。わかる？デイスエルンはうちの最強最絶（最馬鹿）魔導師参人衆でどーにかするわよ！」

「そのどーにかとやらの中身を教えろと言うつとるじゃろつが！！」「そんなのあいつ等に任せないと分かんないわよ！そこがあんたの悪いところよ！」

・・・ギャーギャーととても煩いが、いつもの事だ。

「あ、あの・・・もうすぐ終了予定時刻になりますか・・・」

「うっさいッ！！！！」

「ヒッ！！！！（・・・）」

お知らせに來ただけの青年に軽く凄んで本題に戻る。

「だからね？いい加減許可出しなさいよ。あんたのトコの責任でしょ、元はと言えば。」

デイスエルンとは、東の都市のエルヴァンの魔術ギルドの一つだったのだが、その都市長が腐っていたものだからいつのまにか無地帯化していたのだ。とんでもなく強い魔術を使い、一般市民から金銭を巻き上げるといってもない悪党どもなのだ。

「ぐっ……しかし……あれは……。。。」

「だまらっしゃい！あんたが東の長でしょ!？」

「む……。」

「さあ、さつさと許可出しなさい!!!」

しばらくレインドは悩んでいたが、唸って、仕方なさそうに

「……いいだろう。許可を出す。」

「よっしゃっ!!このジジイ全く面倒なんだから……。」

ブツブツ言いながら、ウェインは部屋を後にした。

会議（後書き）

はい、おわたー。誰か文才よこせー。10円上げるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1778v/>

魔術連盟！

2011年10月9日13時51分発行